

— 目 次 —

I	2011 年度総括	1
II	2011 年度事業報告	2
1.	今治市民活動センター管理運営事業	2
(1)	施設の運営業務	2
(2)	市民活動団体のスキルアップのための研修業務	3
(3)	市民活動基礎講座開催業務	5
(4)	機関紙発行とこれに付随する情報収集業務	12
(5)	市民活動団体相互の交流推進業務	12
(6)	ボランティアコーディネート業務	13
(7)	相談業務	13
2.	その他の事業	17
(1)	情報提供事業	17
(2)	審議会・委員会への参加	17
(3)	講師派遣	18
(4)	協力事業	18
(5)	資源回収活動事業	19
(6)	いまばり夢学校開校準備事業	19
(7)	「しまなみ資源」を活用した地域振興事業	19
3.	会議に関する事項について	19
(1)	総会	19
(2)	理事会	19
III	2011 年度決算	21
1.	2011 年度活動計算書	21
2.	2011 年度貸借対照表	23
3.	2011 年度財産目録	24
4.	2011 年度監査報告書	25
IV	2012 年度事業及び予算	26
1.	2012 年度事業計画書	26
2.	2012 年度事業予算書	31

I 2011 年度総括

2011 年は NPO を取り巻く環境が大きく変化した年でした。13 年ぶりの「NPO 法改正」、そして「新寄付税制」。「公（おおやけ）」のことを、行政・市民・企業が皆で支え合う仕組み「新しい公共」を推進していく息吹の中で、その担い手として期待される NPO の活動を応援するものです。制度が「生きた」ものとなるためには、私たちが制度を知り、適切な活用と運用について確認していくことが大切だと感じています。現在、全国には 4 万 5 千を越える NPO 法人が誕生しており、県内にも 238 の法人が活動をしています。しかし、税制上の優遇措置を受けられる「認定 NPO 法人」は県内には 1 法人しかない状況。NPO が力をつけ、市民ニーズにどう応えていくのか真剣に考え、獲得した「寄付がしやすいしくみ」をいかしていきたいものです。

設立当初から管理・運営をする「今治市民活動センター」も節目の年でした。平成 15 年度からスタートしている指定管理者制度の区切りを迎え、ここ 10 年の検証となりました。市民活動団体を支えてきたつもりが、センターに愛着を持ってご使用くださる団体の皆様、ボランティアの皆様に支えられる施設であったと感じています。地域への認知度は徐々に高まってはいるものの、まだまだ限られた人が立ち寄る施設であることは否めません。今年度は、センターが取り組む市民活動広報の担い手として、学生リポーターを募集するプロジェクトを始動。地域の高校生を中心とする若者の機動力と発信力をいかして、市民活動の魅力を発信しました。学校が終わる時間になると、学生服姿の若者がセンターで活動する様子は、施設の新しい息吹でした。

未曾有の災害から得た教訓。それは自立した地域社会の形成の必要性だと感じています。自助・共助・公助の精神の生かし方を改めて考え、人と人のつながり、立場や地域を超えての連帯を深める地道な努力。そんな平時の地域づくりが、有事に役立つことが垣間見えました。市民主体の「新しい公共」を、自身の団体ミッションから見直していきたいと強く感じています。

以下に 2011 年度の報告をまとめました。会員の皆様におかれましては、ご意見、ご批正をいただくとともに、引き続きセンターの事業をささえていただきたくお願い申し上げます。

II 2011 年度事業報告

1. 今治市民活動センター管理運営事業

(1) 施設の運営業務（使用調整、受付・案内業務など）

内容	通年事業（月から土曜日 10 時～19 時開館 （事前申込みがあれば、日曜日、祝日 10 時～18 時開館。平日 22 時まで開館）。 ・貸会議室の無料提供（登録団体に限る） ・機材の貸出 ・情報交流スペースでのインターネット回線の利用や書籍の貸出 ・貸事務所の効率的な運営
対象	センター登録者・市民ボランティア・一般
手法	・スタッフは使用者と積極的にコミュニケーションをはかり、意見の収集に努めた。 ・事務所入館団体募集を広報、機関紙等で行い、入館を呼びかけた。
結果 課題	<p>会議室の利用者は 828 団体 6,352 人となった（H22 年度；862 団体、6,191 人）。印刷機器、裁断機、紙折機、プロジェクター、スクリーンなど、市民活動団体の広報活動、会議の運営などに欠かせない備品が整い、多くの方に利用いただいた。デジタルカメラ等、ワークショップやイベントの記録等に活用できる備品貸出のニーズが寄せられており、今後、貸出のしくみを検討したい。1 階ロビーにある、インターネット接続済みのパソコン利用や書籍閲覧ができるスペースの活用も増え、会議終了後、懇談する姿も見られるようになった。</p> <p>貸し事務所は、途中に入退室があったが、3 月末現在で 7 団体が入館しており、内 2 団体が 2 部屋を使用している状況である。事務所を持つことで活動の幅が広がるなど、その効果も生まれている。貸出の許可等の手続きが指定管理者に委譲され、簡易になり、入館団体には好評である。</p> <p>センターの認知度が徐々にはあがってきているが、初めて足を運んだ方から「何をしている施設が分かりにくかった」等の声をいただく。市民活動未経験者層にも気軽に足を運んでもらうことができるしかけを引き続き検討していきたい。</p> <p>（使用者から寄せられた声）</p> <p>以下のような声が届けられた。</p> <ul style="list-style-type: none">・給湯などの設備を自由に団体で使用できる点、使用の手続きが簡便な点がよい。・会議室、事務室が独立した部屋になってよい。・断裁機、コピー機が便利。コピーは安価できる。・入り口が暗い。・トイレが古く、洋式ではない。・幼児、子ども用スペースがあるといいと思う。・センターがあることを知らない人が多い。（何の建物かわかりにくい）

(2) 市民活動団体のスキルアップのための研修業務

<p>内容</p>	<p>(第1回) 平成23年10月7日(金) 19:00~21:30 参加者 52名 テーマ: NPO×企業協働促進セミナー「呼応しあう関係へ。」</p> <p>NPOと企業の協働事例として、ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン(NPO)と田中産業株式会社(今治タオルメーカー)を取り上げた。互いの得意分野を活かし、対等性を維持しながら事業を進めるにあたって、両者をつなぐコーディネーター的な組織・人の存在、そこで培われる信頼性が重要であることを学んだ。また、信頼を根底にしつつも、契約に基づく業務進行、高い専門性がキーとなることを共有した。</p>  <p>(第2回) 平成24年2月19日(日) 13:30~15:30 参加者 17名 テーマ: 協働事例から学ぶ「タッグを組んで守る故郷の自然」</p> <p>希少生物等をはじめ、多様な生物、豊かな生態系を保全しようと取り組む「大三島の自然を守る会」。大三島の地元住民で構成する団体の活動に、愛媛県内をフィールドに生態系保全に取り組む「NPO法人愛媛生態系保全管理」が専門家として協力。住民、専門家さらには年間を通して訪れる観光客との役割分担を模索する動きから、持続可能なコミュニティについて意見交換した。</p> 
<p>対象</p>	<p>市民活動団体・市民ボランティア・一般</p>
<p>手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協働をテーマに開催。地域の中から事例を探し、市民目線で報告していただくスタイルをとることで、身近な活動であることを認知してもらえるように工夫した。 ・商品開発、人材育成等、持続的に活動を続けていく上で必要な資源を生み出す手法に触れられるよう発表内容を組み立て、活動実践者に参考になるように配慮した。 ・市民活動未経験者層にも関心を持ってもらえるよう、地域の特産品や身近な自然環境を資源とした活動をピックアップ。市民のまちへの愛着心が育まれるように意識したプログラム構築を進めた。
<p>結果 課題</p>	<p>企業とNPOの協働、NPOとコミュニティの協働と、切り口の異なる協働案件を題材に、参加者が「協働」を学ぶ機会となった。どちらの事例も、地域の産業や自然をいかし、その資源活用による地域活性化を目指したもので、市民活動実践者には活動のヒントとなると共に、活動未経験者にも、NPOの活動意義、市民が公共心を育む必要性を考えてもらうきっかけとなった。</p> <p>協働が成功する条件整理をできれば、企画当初の思いはあったが、個別案件により、その条件は多様で、一様に示すことはできないとの所感を持った。ただ、一団体、一企業でまちの変革はなし得ない。よりよいまちづくりには、多様な立場の組織の「協働」は必要条件と言える。</p>

**事例から学ぶ
NPOと企業のパートナーシップ
「呼応しあう関係へ。」**

先般、今治市民会館において、NPOと企業との協働の成功事例の一つとして注目される「ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン(NPO)」と「田中産業株式会社(今治市のタオルメーカー)」のお話を伺いました。そこで語られた成功のテクノロジーとは…。ご報告します。



●NPO法人ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン●

静かに、社会を変えていくプラットフォーム
どこまでも続く真っ暗闇をチームで進む。
寄り添ってくれるのは視覚に障がいを持つ人。
世界で17のエキシビジョンがあり、
54万人が体験する「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」。



「目が見えない。それは何かが悪っているのではなく、違う関係性・豊かな文化があるのではないか」

そんな気づきから開発された「真っ暗闇のエンターテイメント」。自身が感銘を受け、日本で開催したいと取り組んだのが、NPO法人ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン代表の金井真介さん。挑戦し続けているのは、多様な異なる文化を、暗闇を使いながら、融合していくこと。多くのスタッフは、目が見えない人。目を使わず“対話”を導くプロフェッショナルです。



▲NPO・企業の両者から、協働のプロセスでの本音が聞ける有意義な会となった。



▲NPO・企業・行政と様々な立場から約50名が参加。ミニDIDもあり、盛況。

協働 それは異文化の融合

異なる文化を持つNPOと企業の協働。金井代表は二者を歯車に例えて説明しました。同じ地域社会の中で、同じ方向に回る歯車。近づいてもかみ合わない。一方が回転の方向を変えて、相手に合わせる。一見うまくいきそうだが、継続に無理が。どちらかが、どちらかに合わせる必要はない。もう一つの歯車を入れることが成功の秘訣だ！

「互いにとって、真ん中に入り、文化を融合させてくれる“歯車”が何なのか」皆が考えた大切なキーワード。田中社長曰く、“歯車”とは、通訳をしてくれる人のこと。タオル開発の現場では視覚障がい者の感性を、分かりやすい言葉に置き換えてくれるセラピストやディレクターの存在だったとか。

参加者の声

- 「いいものをつくっただけでは、売れない。評価してくれる人が必要」という言葉が印象的だった。
- 対等性も直感も歯車も深い話だと思った。
- 障がい者ならではの研ぎ澄まされた感性。今後様々な分野に活かしていく必要があることを感じさせられた。

DIALOG IN THE DARK JAPAN

1989年ドイツで誕生。
1999年以降、
DID ジャパンにより日本でも開催。



日常生活のさまざまな環境を織り込んだ真っ暗な空間の中へ、何人かとグループを組んで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド(視覚障がい者)のサポートのもと、視覚以外の感覚を使い探検するイベント。企業の研修に活用されるなど、これまでに3万人以上が体験している。

●田中産業株式会社●

究極のタオルをつくりたい



質の向上を進める“今治タオル”

使って心地よい肌触り。これを数値化できないか。
そんな思いを抱いていた時に出会い、実現したのが
「ダイアログ・イン・ザ・ダーク・タオル」。

真っ暗闇で感じたドキドキ・ワクワク。そこで得た感動。田中良史社長を共同タオルの開発に突き動かしたエネルギーは、誘われて参加した「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」の体験でした。目が見えないアテンドと結ばれる対等な信頼関係、チームになった参加者との深いコミュニケーション。違いを認め、理解し合う、まさに“対話”するプロセス。「この体験が好きなんです。できれば1年に1回は体験したい。」、紆余曲折あった共同開発を支えた信念はこの一言に集約されています。



▲パッケージにもこだわったDID・タオル。



デザインで選ぶ人も多し中、真っ白で勝負。

(3) 市民活動基礎講座開催業務

内容

(第1回) 平成23年5月29日(日) 9:30~12:00 参加者:12名
高校生を中心とする若い世代が、今治市で活動する市民活動取材し、彼らの発想や視点をいかして、地域の現状や求められる活動を「機関紙・ラジオ・ブログ」で発信していくプロジェクト初回研修会。取材先である市民活動の概念を理解した後、取材の基本、文章を書く手順や方法を学んだ。「社会とのつながり」「自発的活動の広がり」など、市民活動の本質的な意義を見出そうと意欲的で、取材先を決め、準備するボランティア活動がスタートした。



取材は事前準備が重要。プロの新聞記者の技として、ペン、メモ、カメラ等の使い方を伝授。



「記事化する“5w1h”」、「結論をコンパクトに」等、ポイントはメモをとりながら聞き入る参加者



相手の思いを聞き出す取材に挑戦。「伝える」と「伝わる」は違うということを体感。

(第2回) 平成23年7月10日(日) 10:00~12:30 参加者:12名
「組織を正しく分かりやすく伝える」をテーマに、情報発信のあり方、その支援者としてのボランティア活動について手法を検討した。取材先となる団体(3団体)をセレクトし、団体のミッション、事業内容、設立経緯、組織規模などを調べ、団体が社会にとってどんな役割を果たしているかを整理することによって、NPO・ボランティア活動の存在意義について学んだ。

取材に向けて、グループでの準備会を順次開催(7/12 10名・7/14 9名)

取材は、グループごとに実施(7/20 12名・8/1 5名・8/6 2名)



(第3回) 平成23年8月18日(木) 15:30~18:00 参加者:8名
「伝わる番組とは」をテーマに、広報媒体の一つラジオの活用について学習した。市民活動の意義、団体の魅力を伝えるためにのコンセプトづくりの大切さをおさえ、実際に声を出しながら、1分間に伝えられる原稿量を確認するワークショップとなった。「知らせる番組」「考えさせる番組」「ほっこりさせる番組」「元気を出させる番組」、様々な観点から創りたい番組の案が出された。



収録は、順次実施(8/26 5名・9/15 10名・9/30 6名・11/9)

	<p>(第4回) 平成23年8月19日(金) 15:30~18:00 参加者:8名</p> <p>「伝えるためのデザイン講座」と題し、座学とワークショップを行った。デザインのルールを理解、人に手にとってもらえることができるデザインについて学びが進み、具体的にデザインするプロセスを理解することができた。広報誌「夢サラダ」の製作を実際に行い、誌面づくりを実体験から学ぶことができた。</p>
対象	市民活動に関心のある一般市民(高校生中心)
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献意識が高まる若者にターゲットをあてたプロジェクトを設計した。 ・地域の若者として高校生をメインターゲットに参加を呼びかけた。 ・若者が活動現場を訪れることで、市民活動団体の取り組みの認知度向上を目指した。 ・出来上がった成果物「機関紙夢サラダ」を通して、多くの市民に活動の意義や魅力を伝えた。
結果 課題	<p>ボランティア活動の側面からだけのアプローチではなく、「取材＝文章を書く・写真をとる」といった、若者のスキルやエネルギーを社会へいかすことができる、そんな現場となった。センターに足を運んだことがない若者が、センターを知り、センターの位置づけや業務内容を理解する機会ともなり、市民への認知度向上を目指す中、一石二鳥の有意義なプログラムとなった。</p> <p>広報やコミュニケーションに課題を感じる団体を対象に、若者が発信を手伝い、広報面の課題解決を担うプログラムとして実施。団体の発信力の支援につながった。一方で、例えば、若者が現場で感じた「もっとこうしたらいい活動になるのではないか」といったストレートな意見を団体に還元する機会とはならなかった。若者目線で、現状の活動への改善提案などを望む声もあった中、そこまでの活動に高めていくことはできなかった。次年度へつなげたい。</p> <p>いずれにしても、市民活動団体にとって、活動への参画者を増やしたり、活動資金を集めたりするために、PRや透明性ある運営は必須である。地域の若者が第三者として活動を伝えたり、活動の現場へ踏み込んだりする機会は数多く創出していきたいと感じている。</p>

高校生目線 NPOを伝える



人間の陰の心を扱う能

人間の心を扱う「能」。特に人間の心の「陰＝悲しみ、苦しみ、怨みや嫉妬など」を取り扱う。人間の内面は限りなく複雑で、それを表現する能にも限りなく深みがある。この魅力は体験した者にだけ、沸きあがってくるもので言い表しがたいものだ。



▲少年談「大亀先生は、能の魅力がわかる素晴らしい先生だ。」

最高齢の方が楽しむ姿が嬉しい

教室には90歳を過ぎた方が習いに来られていて、「こんなに年をとってから、こんなに楽しめるものがあって本当に嬉しい」と言ってくださった。その言葉を聞き、この活動に取り組んでいて、本当によかったと感じた。「今治能」に足を運んでくれる人の感想も力になる。鑑賞後、「来年も是非来たい」と声をかけてくれた時、やりがいを感じる。

苦労もあったと思うが、苦労を苦労と感ぜない。何かを成し遂げようとする時、その途中で苦労があるのは当たり前で、苦労があるからこそ後に感じられる喜びは大きい。



▲生徒談「いつまでも楽しむためには勉強第一」

能—人間を描く芸術—

～観世流・能楽師 大亀藤英さんに聞く、伝統芸術・能～

能の普及、伝承を目的に活動する「橙黄会」。代表の大亀藤英さんは東予でただ一人の観世流の能楽師だ。能に親しむ人の裾野拡大が使命と、団体を設立。日常的な謡・仕舞の稽古、定期的な能の発表会への出演などに取り組んでいる。今、特に力を入れているのは年に1回主催している「今治能」。プロの能楽師を招き、本物の能に親しむ機会として、今治に根付かせたいと意気込む。大亀さんにお話を伺った。

今治を本格的な能が見られる街へ

今年で5回目の開催となった「今治能」の定着だ。年に1回は「能」が鑑賞できるまち・今治。そんな文化水準のあるまちを目指したい。たくさんの人に能を体験してもらい、また、一人でも多くの人に能の魅力を知ってもらいたい。大きな目標は、後継者探しだ。今治から能楽師を目指す人が出てきて欲しいと願う。



▲生徒談「こども教室からずっと続けている。能は本当におもしろい。」

橙黄会

今治市枝掘町 2-2-5 ☎0898-22-0721 (大亀)

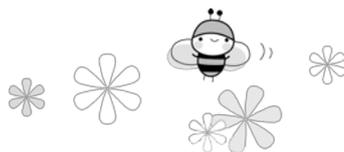
編 集 後 記

嫁ぎ先で勧められてはじめて「能」。嗜む程度のつもりから、プロの能楽師になった大亀さん。大亀さんに続く後継者が生まれればと願うという言葉には、ちょっとしたきっかけが人生の転機になるということを感じさせていただいた。

初日の取材の日は、小学生が練習に励んでいた。誘われてはじめて「能」だというのが、「身体を激しく動かさない静かな動作が気に入った」と、能の魅力をも自分のものにしていく言葉に脱帽だった。身近にいる師匠・大亀さんを慕う子ども達。プロの能楽師が今治にいることが財産だと感じた。

今年は、7月8日に今治能を予定しているそうだ。大亀さんは、取材中、度々、「能の魅力は体験せねばわからない」と話していた。私は、来年県外へと出てしまうので、必ずとは言えないのだが、是非帰ってきて見に行きたいと思っている。

西岡舞 高橋裕美



飼い主が変わる！社会が変わる！ ～犬と人間の関係を問う活動 K9クラブ今治～

「犬ほど人のために働く動物はいない」 こう話してくれたのは K9 クラブ会長の小林輝紀さん。K9 クラブは、犬の習性を知り、正しく飼い方を知ってもらおうと活動する団体だ。2001 年から今治市を拠点に活動をはじめ、松山市、西条市に会員が広がっている。「犬を飼うこと」の責任を地道に伝え続ける K9 クラブの取り組みについて、お話を聞いた。

ペットブームの陰で

年間に「殺処分」される犬や猫の数。何と年間30万匹にのぼる。先進国ではワースト1と言われる。「ここにいる犬や猫は、殺されるために生まれてきたのだろうか」そんなメッセージを投げかける小林さんに誘われ、「愛媛県動物愛護センター」を訪れた。今治市から松山市奥道後に抜ける県道沿いにあるこの施設は平成14年に開所した。2010年、この施設で「殺処分」されたのは約1500匹。幸いなことに年々減少傾向にある。

「覚悟をして見てください」、そんな声を職員の方にいただき、処分を待つ犬、猫の施設に足を踏み入れた。首輪がついているものもいた。聞くと、以前は飼われていた犬が多いという。啞然としたのは、「もう飼えないから」と飼い主が持ち込み、捨てた犬と記念撮影をして帰る人もいたとか。人間の身勝手のために、ただ死んでいく犬や猫。不条理さを痛感する。



▲「殺処分数がゼロになるまで、この仕事を続ける。それが使命です」そんな職員のお一人の言葉を紹介してくれた。

時代の要請として

「犬のしつけをする」、「愛護センター」見学前と後では、K9クラブの活動の必要性への認識が大きく変わった。犬を飼うという覚悟を飼い主に伝える意義は大きい。「ほえる」「かみつく」・・・ただ「かわいい」と飼い始めた飼い主への悩みを抱える飼い主は多い。プロのトレーナーに預ける手はあるが、飼い主の指示には結局従わない、そんな結末がおこる事例は意外に多い。飼い主をボスとして慕い、指示に従うこと信頼関係の構築が重要だ。

飼い主と犬の信頼関係。「しつけができ、最後まで責任を持って飼うことができる人しか、犬を飼えない」、実はオーストラリア等ではこれが犬を飼うこと的前提条件だという。どうも日本は根本的に姿勢が違うようだ。

地域へのメッセージは犬と人間の関係

活動をはじめて10年が経とうとしている。飼い主へ犬の習性を伝え、マナーとモラルが向上する活動は、犬と人間が共生できる地域づくり活動として認知度があがりつつある。会員は県下で1500人。活動当初は、犬のトレーニング会場を借りるにも苦労したが、昨今は随分理解が深まった。

毎週日曜日の定例のしつけ教室は、指示を忠実に守る犬の姿がある。2カ月に1回は、飼い主と犬の運動会も開催するなど、楽しい企画も目白押しだ。「どんな問題行動のある犬でも、必ずよくなる」、小林さんの眼差しはやわらかい。



▲今治市内で行っている練習風景。真剣そのもの。



▲見ているだけで楽しいイベントも！一斉に“シット(オスフリ)”する日本新記録達成は大盛況でした。

K9クラブ今治 <http://www.k9club-imabari.net/index.html>

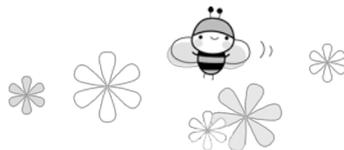
☎090-9559-6203 (越智)

編集後記

「犬のしつけをするボランティア団体がある！」これが大発見だった。お話を聞いて、さらに発見！犬と人間の関係の深さ、そして代表の小林さんの使命感。小林さんは背筋のピンと伸びた、笑顔の優しいお父さん。お歳を伺うと、78歳になるという。パワーの秘訣は、何なのだろう・・・。取材中、圧倒されっぱなしだった。

犬のことだけではなく、海外の事情や経済のこと、何だかもっと別のこともどんどん聞きたくなるような興味深さがあった。また会ってお話を聞かせてください。

岩本将太 丹下大輔 越智祐吾



よみがえれ！ボクのカラダ ～全国シェアNo.1の今治タオルの躍進～

今治の特産品・タオル。“今治タオルを使って手軽に健康づくり”をコンセプトに活動する団体がある。全国生産シェア No.1 の今治タオルが海外のシェアに押されつつあった、まさに渦中の2000年に設立した「今治タオル体操愛好会」だ。会員150名は、ほとんど女性。「まちを元気にするのは女性の力」と笑顔で話す、代表の渡辺小百合さんに活動の魅力聞いた。

タオル1本でまちおこし

タオル1本あれば、いつでもどこでもできる体操。手軽さをウリに発信を続ける「今治タオル体操」。地場産品を全面に押し出した活動は、昨今の健康志向にもマッチし、ジワジワと定着しつつある。

去る10月2日には「今治タオル体操コンテスト」を開催した。設立当時に開催していて、途中、開催を見送っていたイベントを3年前に復活。今治タオル体操普及を目指した市民参加型のイベントだ。規定部門・創作部門に分かれ、練習をしてきた体操を舞台上で披露する出場者の皆さん。今年度も大勢の観覧者でにぎわった。「今治タオルフェア」に合わせた開催で、会場周辺がタオル一色の活気に包まれる。



男女共同参画社会実現の勉強会がきっかけ

1999年、「男女共同参画」を推進する委員会のメンバーが、持続的にまちおこしに関わろうとアイデアを出したことが活動の契機だ。地場産品・タオルを体操で活用する発想は女性ならではの。「どんなメロディーにのせようか」、「衣装も大事よね」、現場は女性ならではの視点で創意工夫が進んだ。楽しい現場には人が惹きつけられる。音楽編集、体操のアレンジ、と地元の専門家にも協力者が出た。

木山音頭のメロディーで身体を動かす「タオル体操」。保育園での出前体操、イベントでの披露など、老若男女に体験いただいている。高齢者が無理なくできる「座位編」、高校生を中心に躍動感溢れるスタイルで人気の「ニューバージョン」等、バリエーションも生まれてきた。「参加者の様子を見て、体操の仕方を変えるんですよ」、出前体操で気をつけているのは参加者との一体感。ここにも工夫の心意気がある。



▲リポート中に小学生と一緒に体操！

「ダイエットに効くの？」とよく聞かれるけど…。有酸素運動の効果は20分から！ということとはタオル体操3分×7回かぁ…。(笑)

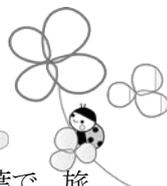


全国放送！またも決定！
「たけしの家庭の医学」
1/17 (火) 放送予定。

▲かつこよく決まったジュニアの演技！

- 目標3本柱 ①女性のチカラをまちに
②全国シェア1位の今治タオルのPR
③市民の健康増進

目標達成を支えるのは、地域の子ども達かも！



夢は世界発信

いつでもどこでもタオル1本！そんな合言葉で、旅先で出会った人と体操をしたこともあるメンバー一同。しかも、それは異国の方というから驚きだ。言葉の壁を越えて繋がった経験は、タオル体操の魅力を確認する機会となった。

世界発信も夢ではない。先般は、NHKの全国放送で活動が紹介され、多くの方に反響をいただいた。元気よくタオルを振りながら入ってくるインパクトに、モニターに釘付けになった人も多かったのではないだろうか。

手づくりで進めてきた活動。次世代へ繋ぐために、当面の目標は「男性の会員を増やすこと」！2011年10月から、別宮公民館において、男性向けの教室も始めたそう。

今治タオル体操愛好会の動きに目が離せない。

今治タオル体操愛好会 090-7574-8671 (渡辺)



編集後記

「今治タオル体操愛好会」のパンフレットをみて、エネルギーがビビッと伝わってきて取材先に選びました。取材先では、体操の練習をする子ども達に振り回されちゃいましたが、今治タオル体操コンテストの審査員をさせていただく経験もあるなど、とても楽しい活動でした。

放送部の所属しているので、ラジオでの発信は自信あり！うまくできたかなって思います。でも、この「夢サラダ」づくり・・・原稿を書くのって、かなり大変でした。やっけていて忍耐力がついたかな！それをテスト勉強にいかします！

浅海和花奈 上野桃子 齋宮健吾

市民活動リポーターが登壇した地域の催し(PRの機会)

地域応援セミナーとうよ

若人発！集おう 語ろう 創ろう 未来の郷土ふるさと

去る1月14日(土)、私たちの郷土を私たちの手で元気にしていこうと、愛媛県東予の5市町の有志による実行委員会が「地域応援セミナーとうよ」を開催しました。会場の新居浜市市民文化センターには愛媛県内を中心にボランティア・市民活動の実践者を中心に約400名が集結。地域づくりの担い手である“若者”に焦点をあて、若者参画のしくみづくりについて議論しました。



「こんなまちにしたい！」東予の若者からのメッセージタイム

東予5市町の若者主体の活動報告からスタート。西条市・上島町・今治市・四国中央市・新居浜市の順にプレゼンテーションしました。高校生の手でつくったバリアフリーマップの紹介(四国中央市)、離島振興に取り組む島の“若い衆”のつながり(上島町)など、発表は多彩で、それぞれに故郷への熱い想いが語られました。



今治市の発表は今治精華高等学校の越智祐吾くん、高橋裕美さん、西岡舞さんが担当。今治市民活動センターで取り組んだ「市民活動リポーター」の活動を紹介。地域づくりの現場で出会った人の魅力、そしてその魅力を多くの人に伝えようとチャレンジした広報活動について発表しました。



「学校を超えた仲間、日常生活から一歩踏み出した新しい世界との出会いが魅力」との感想を述べた3人。「自発的なボランティア活動の精神を周りの大人には理解して欲しい」、そんな社会へのダイレクトな声も飛び出し、会場には温かい笑いと共に拍手が起こる場面も。地域の大人に学ぶべきメッセージが、そこにはありました。



この催しの企画にあたって、今治の高校生が取り組む地域活動について事前リサーチ。



当日を迎えるまでに...



誘われて、踏み出した一歩。そこで見えてきた地域に流れる時間...。今治の発表のテーマは「ボクらは、まちへ出てみた。～絆は動いてつむぐもの～」としました。



今年も募集中!

●市民活動リポーターとは

ボランティア・市民活動取材したり、実際に体験したりしてまちが抱える課題や活動者の思いを発信する活動です。

現在、リポーター募集中！(詳しくは1面へ)

★同時募集★

学生リポーターに現場取材に来て欲しいNPOを大募集!!



・会場に花を添えたのは、書道ガールズのパフォーマンス。これぞ、若者のエネルギー!!



「若者の動きを地域の動きに！」講演

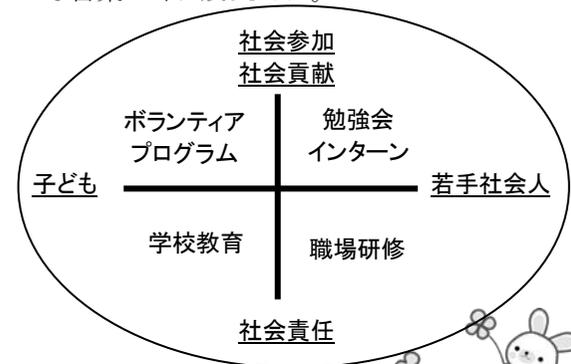


学生ボランティアセンターの設立、大学生の社会貢献活動支援等に取り組む石原達也氏(NPO法人岡山NPOセンター理事)が講演。若者を地域づくりの担い手として育てていく必要性と視点について助言がありました。「東日本大震災被災地を支援する取り組み、農山漁村の地域おこしに長期で参画する活動等、大学生を中心とする若者は熱心に活動しています」と、近年の若者の社会貢献への関心の高さを報告。若者の強みを捉え、当事者意識の芽生えを支援、地域づくりの担い手として、社会に関わる機会を創出していく大切さについて、事例を交えて紹介しました。



求められる考え方は?

「ゴミが落ちていたら拾う」これって、ボランティアですか? 社会人として、当たり前のことかもしれません。社会人として当たり前のこと、つまり、暮らしていく上で果たすべき責任と、社会貢献活動は違うのでは...、そんな言葉が耳に残りました。



参加者の声...

- 今治の高校生が他校とつながりを持って活動をしていることに興味を持った。
- 高校生の本音に近い発言が印象的だった。
- 若い人達が自分の町を本当に愛していることが素晴らしいと思った。
- 学生のやることと線引きしない、本気で...大切だと感じた。
- きっかけづくりは大人の役割だと思った。



東予の美味しいもんが、並んだ「特産品販売」。5市町の交流を促すきっかけになりました。

(4) 機関紙発行とこれに付随する情報収集業務

内容	「夢サラダ」(年間2回)、「得夢サラダ」(年間12回)を編集、発行した。また、活動経験のない一般市民に情報を届け、市民活動の意義や魅力を伝えようと、「夢サラダ」配布場所を開拓した。
対象	市民活動団体・一般
手法	・活動の担い手を紹介することで、まちの特性を感じることができる誌面とした。 ・ホームページでも情報を伝えた。
結果課題	市民活動団体124団体、施設・機関33箇所に配布した。配布部数は毎月冊子2189部、掲示用371部となった。身近な地域の魅力を伝える誌面構成としたことで、市民活動経験のない方にも読みやすいとの意見をいただいた。掲載内容は、本会のホームページへ掲載し、多様な方へ情報を届けるよう努めた。より多くの方に購読してもらえよう、誌面の工夫、配布・掲示場所の開拓に取り組んでいきたい。

(5) 市民活動団体相互の交流推進業務

	<p>◆使用者協議会</p> <p>平成23年5月11日(水)13:30~14:30 参加者:8名 事務室入館団体の皆さんと合同でセンター防火・避難訓練を行い、その後、今年度のセンター事業の企画内容を説明し、使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。今治市民活動センターの運営のあり方、施設の良い点、改善点などを意見交換した。</p>  <p>平成23年12月27日(火)11:30~12:30 参加者:12名 事務室入館団体の皆さんと合同でセンター大掃除を行い、その後、センターの管理運営業務などについて使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。今治市民活動センターの備品などが老朽化しており、改善を求める声があがった。</p> 
対象	使用登録団体・市民ボランティア・行政職員
手法	・今治市内の団体の活動紹介の場とする。 ・多様な活動に触れ、活動の広がりを感じてもらえる取り組みとした。
結果課題	「使用者協議会」の位置づけで、センター事業を話し合う機会となった。会議室や事務所の使い方のルール等の見直し、講座のテーマの検討等、ハード・ソフト両面について、使用者自らが参画しながらセンター運営していけるよう、協議の場を有意義なものにしていきたい。

(6) ボランティアコーディネーター業務

内容	ボランティアの応援を求めている方とボランティア活動をしたい方をつなぎ、双方が対等な立場で共に問題解決を図った。
対象	ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・今治市社会福祉協議会と連携をとりながらすすめる。 ・情報提供を求めている人には、機関紙「得夢サラダ」やホームページなどを利用して活動を紹介する。
結果 課題	初めて来館するボランティア活動希望者39件、ボランティアを受け入れたい組織・個人115件のコーディネーションを行った。ボランティア活動のきっかけづくりを目的に実施された「サマーボランティア・キャンペーン2011」「ウインターボランティア・キャンペーン2011」(愛媛県主催)の窓口の機能を果たすことで、よりきめ細かな情報発信や需給調整ができた。ボランティアコーディネーションを通して、市民活動団体が多様な人を巻き込み、活動を発展させることができるよう引き続き、調整をしていきたい。

(7) 相談業務

内容	<p>団体設立や運営などのアドバイスを、電話・メール・来所にて日常的に受け付け、対応した。</p> <p>今年度は支所での出張相談会も実施した。広域合併した今治市において、別宮町にある拠点施設には足を運べない方が、近隣の支所で相談をできる利便性があり、ニーズはあると感じた。一方、相談会実施の周知が徹底されず、相談者は数名に留まり、開催の仕方に工夫が必要だと感じた。</p>	
対象	市民団体・行政職員	
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体が自らの課題を整理し、その解決策を発見することを支援する。 ・職員で対応できない専門的な質問については、地域資源(地域の専門家、他の支援センターなど様々なテーマに応えられる人、組織)を活用し、支援を行う。 ・初歩的な質問については、フロアーに掲示し、来館者に視覚的に知らせる。 	
結果 課題	<p>団体設立や運営など、148件の相談に電話・メール・来所にて対応した。「ネットワークづくり」「マネジメント」「資金調達」などについての相談が寄せられ、情報提供・サポートを行なった。相談に答えるだけでなく、相手の次のニーズをコミュニケーションの中で引き出し、対応した。「NPO法人設立」の事務的な相談件数が増加したことを受け、相談者に情報を提供する紙媒体の掲示物を充実させた。</p> <p>(使用者から寄せられた声)</p> <p>以下のような声が届けられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切に対応してくれる。 ・電話相談でも、丁寧に教えてくれる。 ・情報がたくさんあって、頼りになる。 	

6月に実施した出張相談の結果は以下の通り。

相談件数：8件（玉川2件、波方1件、大西1件、菊間1件、上浦1件、関前 2件）

内 容：団体設立、NPO法人設立 3件・事業化、資金獲得 2件

ネットワーク 2件・災害ボランティア（希望） 1件

○出張相談の機会があることは「あった方が便利」との声が相談者から寄せられた。

○住民参画による地域活動活性化を行政として支援したいとの思いを支所単位で持っていることが感じられた。事業化、組織化についての相談は専門性が必要なので、相談のニーズが掘り起こされれば、出張相談のしくみは有意義との意見があった。

○関前は離島という空間の中で、陸地部の現状なども含め、情報を求め相談に来る等、ニーズの違いを感じた。

○相談会開催について、住民へ情報が届いていないことが大きな課題であった。周知の仕方を工夫する必要性を感じた。

・1回、広報に掲載しただけ。

・相談会開催日が広報掲載日から時間がたってしまった島しょ部等は、周知徹底が難しかった。

・菊間町、関前などは、町の有線で周知してくださった。

○一方、ボランティア・市民活動に興味がない住民が多いとの意見もいただいた。

今後も市民団体の現状、抱える課題、目指す方向性などに合わせた個別対応により、団体の資源調達力、マネジメント力向上に貢献したい。

センター視察による相談対応

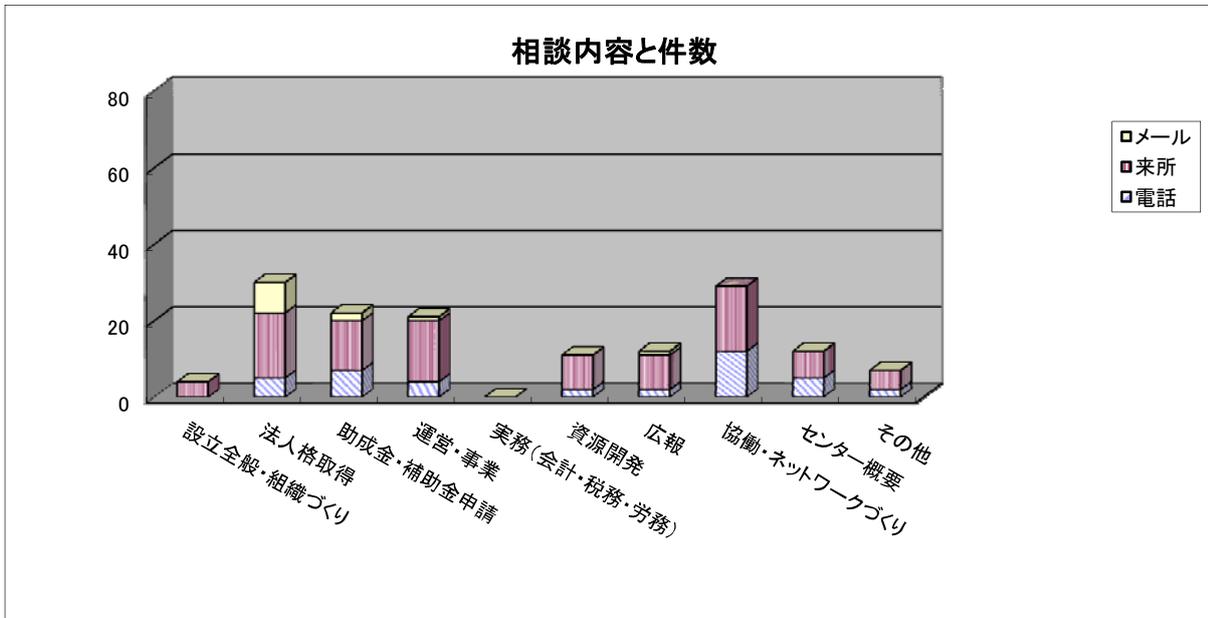
平成24年3月17日（土）10：45～11：45

廿日市市市民活動センター運営協議会

相談状況詳細

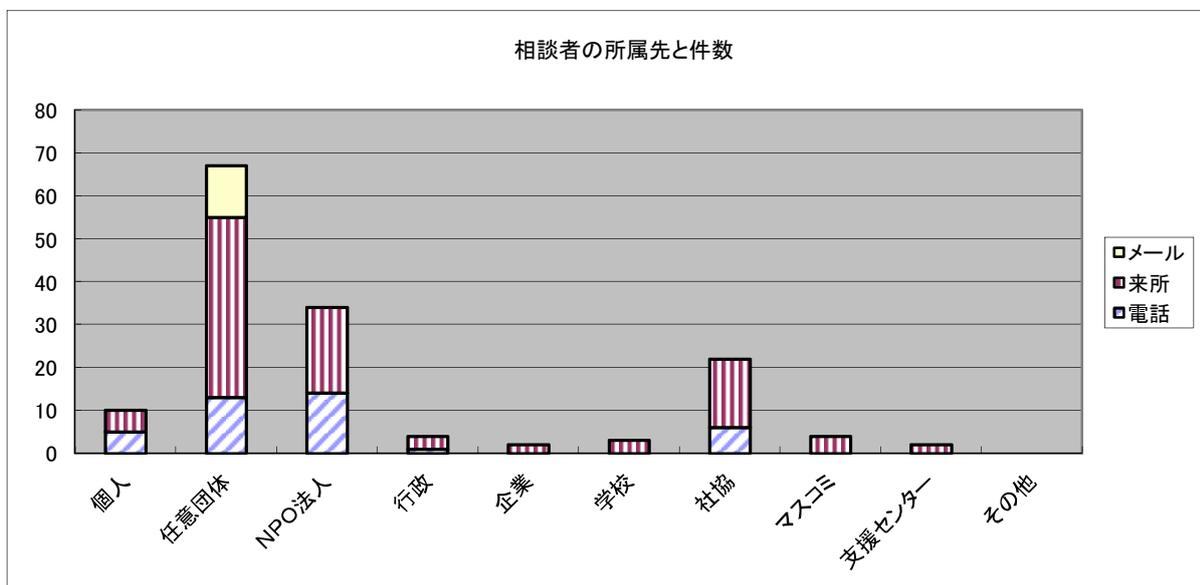
【相談内容と件数】

	電話	来所	メール	合計
設立全般・組織づくり	0	4	0	4
法人格取得	5	17	8	30
助成金・補助金申請	7	13	2	22
運営・事業	4	16	1	21
実務(会計・税務・労務)	0	0	0	0
資源開発	2	9	0	11
広報	2	9	1	12
協働・ネットワークづくり	12	17	0	29
センター概要	5	7	0	12
その他	2	5	0	7
合計	39	97	12	148



【相談者の所属先と件数】

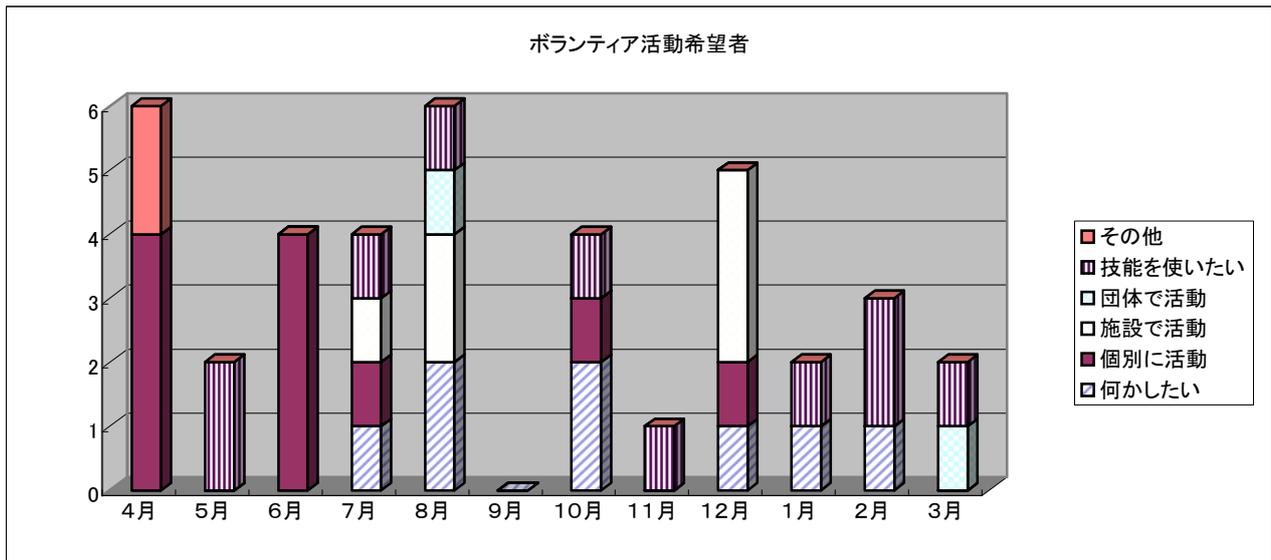
	電話	来所	メール	合計
個人	5	5	0	10
任意団体	13	42	12	67
NPO法人	14	20	0	34
行政	1	3	0	4
企業	0	2	0	2
学校	0	3	0	3
社協	6	16	0	22
マスコミ	0	4	0	4
支援センター	0	2	0	2
その他	0	0	0	0
合計	39	97	12	148



コーディネート状況詳細

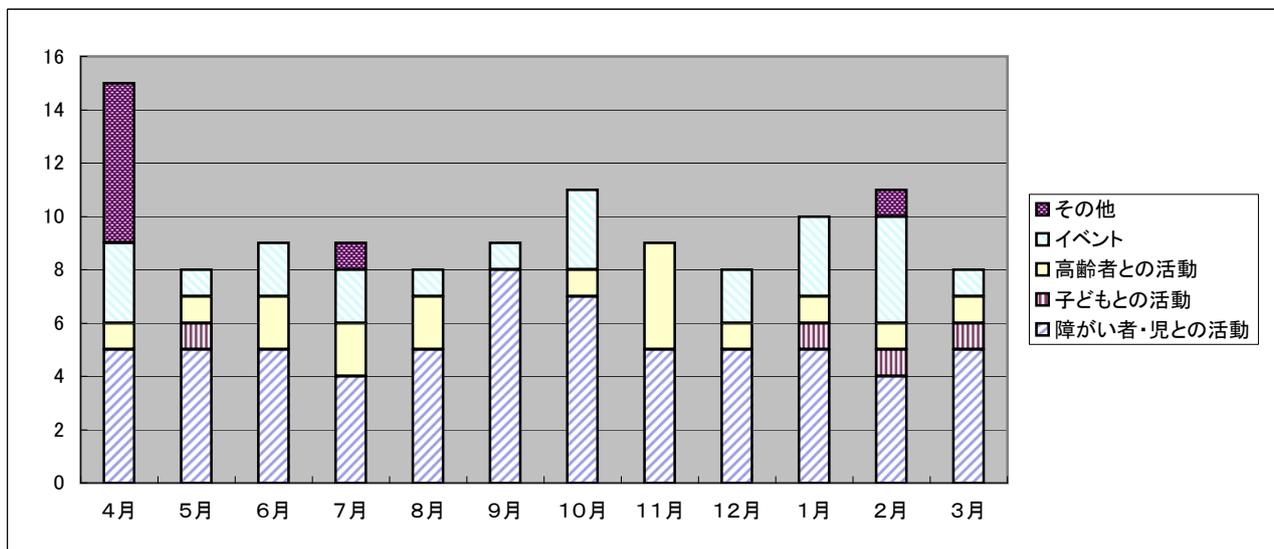
①ボランティア活動希望者

ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
何かしたい	0	0	0	1	2	0	2	0	1	1	1	0	8
個別に活動	4	0	4	1	0	0	1	0	1	0	0	0	11
施設で活動	0	0	0	1	2	0	0	0	3	0	0	0	6
団体で活動	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
技能を使いたい	0	2	0	1	1	0	1	1	0	1	2	1	10
その他	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	6	2	4	4	6	0	4	1	5	2	3	2	39



②ボランティアを受け入れたい組織・個人

ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
障がい者・児との活動	5	5	5	4	5	8	7	5	5	5	4	5	63
子どもとの活動	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4
高齢者との活動	1	1	2	2	2	0	1	4	1	1	1	1	17
イベント	3	1	2	2	1	1	3	0	2	3	4	1	23
その他	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	8
合計	15	8	9	9	8	9	11	9	8	10	11	8	115



3. その他の事業

(1) 情報提供事業

期間	手法・内容	協力者
平成 22 年 4 月 ～平成 23 年 3 月	<p>地域の情報を広く社会へ伝える手段であるコミュニティ方法を媒体に市民活動団体紹介、ボランティア情報などを毎週 1 回に発信した。</p> <p>■トークカフェ in ラジオバリバリ 草の根活動の動きを大きなチカラにしていくために、ラジオを通して人と人の交流を深める趣旨で展開した。(今治市民活動センター管理運営事業自主企画事業)様々な分野の活動規模も多様な団体が、ラジオというメディアを通して、広報活動を展開する場となった。日々の暮らしの中で感じる些細な気づきをもとに、身近な仲間たちの小さなグループからはじまる様子が伝えられた点、少人数ながら思いや責任感や役割を分担し、地域に根ざして活動する様子などは、活動未経験者へ大きなメッセージとなった。一方、こうした活動が事業を継続したり、拡充したりする力が不十分な点も見え、今後、一つ一つの活動が成熟した市民社会実現を目指す大きな広がりになるよう、人的交流や相互連携を生み出していくしくみの構築を感じた。</p> <p>今後は、こうした情報発信の場においても、事例等の共有をより有意義に進められたり、活動に必要なしくみを学んだりできるような展開を考えたい。</p>	エフエムラジオバリバリ
平成 22 年 4 月 ～平成 23 年 4 月	<p>センター事業の紹介と報告、ボランティア情報などをホームページに随時掲載した。広く情報を受発信することにより、ボランティア活動の仲介コーディネーション業務にも役立った。市民団体、ボランティアの方から気軽に情報を寄せてもらえるような仕組みづくりが課題である。</p>	

(2) 審議会・委員会への参加事業

行政が設置する委員会・審議会へ参加しました。

期間	名称（主催団体）/参加の立場	テーマ・目的
平成 23 年 6 月 10 日 ・8 月 26 日	愛媛県新長期計画地域別懇談会 (愛媛県) 委員委嘱	新しい愛媛県長期計画の検討 基本計画への意見反映
平成 23 年 4 月 ～平成 24 年 3 月	今治市廃棄物減量等推進審議会 (今治市ゴミ減量推進課) 委員委嘱	一般廃棄物の減量、資源化、適正処理などの調査や審議を行い、意見を答申
平成 23 年 7 月 22 日 平成 24 年 3 月 15 日	ヤングボランティアサポート委員会 (愛媛県) 委員委嘱	青少年の自主的・自発的なボランティア活動を支援する「ヤングボランティアセンター」の事業推進の検討
平成 23 年 9 月 26 日 (懇談会は、平成 24 年 7 月まで継続)	今治市定住自立圏共生ビジョン懇談会(今治市) 専門委員委嘱	広域合併した今治市のビジョン懇談において、市民活動・ボランティア推進への意見集約

(3) 講師派遣事業

依頼に基づき、講師を派遣しました。

期間	名称（主催団体）/参加の立場	テーマ・目的
平成 23 年 5 月 29 日	ゆうゆうヘルプ・波方 10 周年記念フォーラム（ゆうゆうヘルプ・波方） コーディネーター	「生活と心を支えるボランティアと医療生協の仕組み」をテーマに、各 N P O の事例を共有。
平成 23 年 10 月 2 日	今治タオル体操コンテスト（今治タオル体操愛好会） 審査員	今治タオル体操の普及を目指すコンテストの審査員を、高校生の市民活動リポーターが担当。
平成 23 年 9 月 21 日・22 日	愛媛県民生児童委員研修会 講師	子育て支援をテーマに、民生児童委員の取り組み報告のコーディネーター、今後のビジョンを検討するワークショップのファシリテーター。
平成 24 年 1 月 7 日	特定非営利活動法人 愛児園マミーランド	N P O 法人として運営をはじめて 1 0 周年を記念し、歩みを振り返る交流会への参加。
平成 24 年 3 月 23 日	特定非営利活動法人 まちづくり支援えひめ	四国内中間支援スタッフを対象に、中間支援がつくり、育てる市民公益活動を考える場での事例発表。

(4) 協力事業

期間	名称（主催団体）/参加の立場	内容
平成 22 年 4 月 ～平成 23 年 3 月	新しい公共 C C コンソーシアムへの参加 市民、N P O、企業等が積極的に公共的な財・サービスの提供主体となる「新しい公共」創出の精神、仕組み、体制、活動を議論。 N P O 法人の認定、寄付税制等、制度整備、ファンドレイジング、人材育成等、支援体制について掘り下げた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5/18（水）基本方針、事業計画の検討 推進体制の検討 ・ 5/30（月）事業計画の検討 ・ 8/3（水）推進体制の検討 ・ 8/18（木）事業行程の検討 ・ 9/15（木）事業進捗の確認 ・ 9/30（金）事業進捗の確認 ・ 10/12（水）事業進捗の確認 ・ 10/28（金）事業進捗の確認 ・ 11/17（木）事業の進捗の確認 ・ 11/21（月）事業進捗の確認 ・ 12/21（水）事業進捗の確認 ・ 1/20（金）事業進捗の確認 ・ 2/2（木）事業進捗の確認 ・ 2/7（火）事業間連携の検討 他
平成 22 年 4 月 ～平成 23 年 3 月	地域応援セミナーとうよ準備会議への参加 地域応援セミナーとうよへの参加 新しい公共の担い手として、若者にテーマを絞り、討議。社会貢献意欲が高まる若者へ、地域は、大人はどうアプローチすべきか、その方策を意見交換した。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8/13（土）概要について ・ 10/29（土）事業設計について ・ 11/10（木）広報について ・ 11/22（火）市町別部会の状況共有 ・ 12/9（金）当日の役割分担について ・ 1/13（土）リハーサル ・ 1/14（土）本番 ・ 2/14（火）評価会議 他 （今治部会の開催） <p>9 月～12 月に 5 回程度の推進部会を各市町において開催。プレゼンテーション内容の検討、作りこみ作業を展開。</p>

(5) 資源回収活動事業

再生可能な資源ごみを回収した。

(6) いまばり夢学校開校準備事業

次年度への引継ぎ事項として共有した。

(7) 「しまなみ資源」を活用した地域振興事業

自転車による地域振興を進める島嶼部の住民会議への助言を行った。

4. 会議に関する事項について

(1) 総会

①第11回通常総会

日時：平成23年5月17日（火）19：30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2010年度事業報告・収支決算報告

2011年度事業計画・収支予算の件

2011年度役員・有給役員の件

(2) 理事会

①2011年度第1回理事会

日時：平成23年4月20日（水）19：30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2010年度事業報告・収支決算報告

2011年度事業計画・収支予算の件

2010年度役員・有給役員の件

2011年度役員・有給役員の件

②2011年度第2回理事会

日時：平成23年5月17日（火）19：00～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：理事長選任の件

今治市民活動センタースタッフの件

③2011年度第3回理事会

日時：平成23年6月27日（月）12：30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：委員会・審議会への参加の承認

今期今治市民活動センター事業 企画検討

2011年度「新しい公共」支援事業参画にあたっての担当者選任

④2011 年度第 4 回理事会

日時：平成 23 年 8 月 9 日（火）12：30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：講師派遣の承認

今期今治市民活動センター事業 企画検討

⑤2011 年度第 5 回理事会

日時：平成 23 年 10 月 4 日（火）12：30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：指定管理者としての 5 年の振り返り

今治市民活動センター指定管理見直にあたっての応募と企画検討

⑥2011 年度第 6 回理事会

日時：平成 23 年 12 月 21 日（水）19：00～

会場：今治国際ホテル

議題：今治市民活動センター指定管理者内定の報告と事業設計

2011 年度「新しい公共」支援事業の進捗報告

⑦2011 年度第 6 回理事会

日時：平成 24 年 2 月 9 日（木）12：30～

会場：今治国際ホテル

議題：次期今治市民活動センター事業企画検討

2011 年度「新しい公共」支援事業の進捗報告、評価